〔箋注倭名類聚抄一水土〕按美岐波、水際之義、故以訓水際平沙之汀、充之、後多與奈岐佐混言、廣本作三左木、誤、按類聚名義抄、伊呂波字類抄、並訓三幾八、不訓三左木、〇略中 廣韻同、按玉篇、汀水際平沙也、孫氏蓋依之、說文、汀平也、

〔倭訓栞前編三十美〕みぎは　汀をよめり、水際の義也、唐韻によれる也、新撰字鏡に濆を水ぎはとよめり、

〔拾遺和歌集八雑〕延喜御時屏風に　つらゆき

雨ふるとふく松かぜはきこゆれど池のみぎはゝまさらざりけり

〔土佐日記〕この童さすがに恥ていはず、しねてといへば、いへる歌、

ゆく人もとまるも袖の涙川汀のみこそぬれまさりけれ、となんよめる、

〔源氏物語四十七角總〕風のいとはげしければ、しとみおろさせ給に、四方の山のかゞみとみゆる汀の氷、月かげいとおもしろし、

〔倭名類聚抄一河海〕溝　釋名云、田間之水曰溝、古候反、縦横相交稱也、和名三曾、

渠　同上

〔箋注倭名類聚抄一水土〕神代紀溝字、齊明紀渠字同訓、欽明紀洫字、新撰字鏡坑字、亦訓三曾、按、說文溝水瀆也、渠水所居也、二字義不全同、然呂氏春秋上農篇注、渠溝也、故云又用渠字也、

〔倭訓栞前編三十美〕みぞ　溝渠をよめり、水裾の義成べし、新撰字鏡に坑もよめり、

〔八雲御抄三上地儀〕溝　まけみぞかたといふは、まうけたるみぞのかたなり、池などの水出道也、さくたのうなで田溝也　うなでとは溝名也

〔倭訓栞前編四宇〕うなて　日本紀に溝をよめり、八雲御抄にも、うなてはみぞといふと宣へり、臥手の義なるべし、繩手の類也、